算数科学習指導案

指導者　田坂　順子
中野　栞里
小田　直子

１　日　時　令和２年 12 月 15 日（火）　第６校時（14:10～14:55）
２　学　年　第１学年２組　男子 11 人　女子 14 人　計 25 人
３　単　元　どんなけいさんになるのかな？
４　単元について

単元について

本単元は，学習指導要領「A 数と計算」A(２)加法，減法ア(ア)「加法及び減法の意味について理解し，それらが用いられる場合について知ること。」(イ)「加法及び減法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすること。」を受けて設定されたものである。

児童は，加法，減法が用いられる具体的な場面を，＋や－の記号を用いた式に表したり，式を読み取ってお話を作ったりしてきている。それを受け，本単元では，問題文にない集合数を絵から補いながら，加法や減法を適用して問題解決を図ることにより，加法や減法が用いられる場合についての理解を深めようとすることがねらいである。

児童の実態

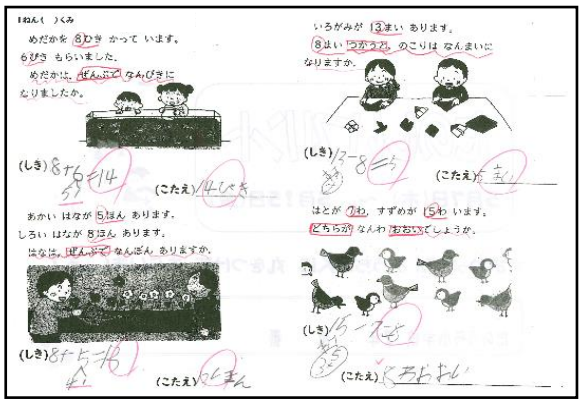
①レディネステストの結果

項目	正答者（人）	誤答の様子
文章題から立式し，答えを求めることができる。（増加）	24／25	・立式はできているが，たし算の計算をひき算でしている。
文章題から立式し，答えを求めることができる。（合併）	24／25	・立式はできているが，計算間違いをしている。
文章題から立式し，答えを求めることができる。（求残）	24／25	・大きい数から小さい数をひけていない。 ・８－13 をしている。
文章題から立式し，答えを求めることができる。（求差）	19／25	・ひき算の立式ができない。 ・大きい数から小さい数をひけていない。 ・問題に合った答えができていない。「どちらが～おおい。」という言葉を書いていない。

②対象児童の実態と要因

対象児童のレディネステストの結果は右の通りである。

・答えは正答だが，数えたしをしており，10 のまとまりを理解していない。
・問題文から場面を想像することが苦手で，問題を理解するまでに時間がかかる。
・10 の合成・分解を理解していないので，繰り上がりのたし算や繰り下がりのひき算の定着が図られていないことが要因と考えられる。



指導にあたって

指導にあたっては，以下の３点について留意する。

① 問題文に不足している数や言葉があることを見つけさせるため，２つの分かっている数，式を決める言葉，聞かれていること(問い)を確認する。
② たし算言葉やひき算言葉に印をつけて，演算決定の場面を想起させ，根拠を持たせて立式し，説明させる。
③ 問題場面を把握しやすくさせるために，必要な挿絵だけを見せたり，注目させたい部分は絵を動かせるようにしたりする。(フォローアップ)

５　単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
加法や減法を適用して問題を解決することを通して，演算を決定することができる。	加法や減法を適用して問題を解決することを通して，演算を決定した根拠を説明できる。	加法や減法を適用して問題を解決することを通して，粘り強く考えたり，色々な場面に活かそうとしたりしている。

６　単元の指導計画と評価規準　（全２時間）

時	学習内容	評価の観点				
		知	思	学	評価規準	評価方法
1	・挿絵を見て問題文に数を補い，立式し，その根拠を説明する。 ・加法や減法が用いられる場面についてまとめる。	○	◎		・加法や減法を適用して，どんな式で解決すればよいか考えることができる。 ・加法や減法が用いられる場面を式に表したり，式の根拠を説明したりすることができる。	発言 ワークシート
2	・挿絵を見て，問題を作る。 ・作った問題の式を書いて答えを求める。	○		◎	・演算決定の言葉を使い，粘り強く問題を作ることができる。 ・加法や減法が用いられる場面を身の回りから見付け，用いようとしている。	発言 ノート